

2.5 環境への影響

2.5.1 環境関連法と環境行政

フィリピン共和国の環境アセスメントに係る根拠法令を以下に示す。

- ・大統領令 (President Decree) 1151 号 (1977 年) : フィリピン環境政策 (Philippine Environmental Policy)
- ・大統領令 1152 号 (1977 年) : フィリピン環境法典 (Philippine Environmental Code)
- ・大統領令 1586 号 (1978 年)
- ・大統領布告 (President Proclamation) 2146 号 (1981 年)

それらに基づく手続きは環境天然資源省行政命令 (DENR Administrative Order) 21 号 (1992 年) : 修正された新しい環境影響評価制度 (Amending the Revised Rules and Regulations Implementing) により規定されている。環境に及ぼす影響の著しいプロジェクト (Environmentally Critical Projects, ECP) は環境影響評価報告システム (Environmental Impact Statement System, EIS) に関する手続きを履行することが義務付けられていて、環境的に脆弱な地域 (Environmentally Critical Areas, ECR) で行われる ECP 以外のプロジェクトはプロジェクトの記述 (Project Description, PD) に係る書類の提出を求められている。PD に係る書類の提出を求められているプロジェクトは、必要があると見なされれば EIS に係る書類の提出を求められることがある。

大統領布告 2146 号に掲げられた、環境影響のとくに著しいプロジェクト及び環境的に脆弱な地域は以下のとおりである。

環境影響の特に著しいプロジェクト

- ・重工業プロジェクト
(非鉄金属工業、製鉄所及び製鋼所、石油及び石油化学工業、精練プラント)
- ・資源利用産業プロジェクト
(大規模な鉱業及び採石業、林業、水産業)
- ・基盤整備プロジェクト

(大規模なダム、大規模な発電プラント、大規模な埋立て、大規模な道路及び橋梁)

環境的に脆弱な地域

- ・国立公園、流域保全区域、野生生物保護区域及び鳥獣保護区域
- ・重要な観光地
- ・絶滅寸前の、または絶滅の恐れのあるフィリピン固有の野生生物（植物及び動物）の種の生息地
- ・比類のない歴史的、考古学的または科学的に重要な地域
- ・文化的コミュニティまたは部族により伝統的に占有されている地域
- ・自然災害にしばしば見舞われ、及びまたは自然災害の激しい被害を受けている地域
- ・急傾斜の地域
- ・重要な農業地域
- ・帯水層（地下水）かん養地域
- ・水域

環境アセスメントに係る事務を所掌する行政機関は環境天然資源省 (DENR) で、その下部機構として環境保護局 (Environmental Management Bureau, EMB)、EIS 評価委員会 (EIS Review Committee)、州（地域）環境保護事務所 (DENR Regional Office)、州（地域）EIS 評価委員会 (Regional EIS Review Committee) 等がある。

EIS に係る書類及び PD に係る書類に記載する内容は環境天然資源省行政命令 21 号に示されている。主な内容は次の通りである。

- ・EIS の手続きを必要とするプロジェクトの提案者 (Proponent) は EIS に係る書類を EMB に提出しなければならない。
- ・提出された EIS に係る書類は EIS Review Committee 及び、または DENR Regional Office による審査を経て、DENR の長または DENR の長が任命した代理者により承認された環境許可証明 (Environmental Compliance Certificate, ECC) を取得しなければならない。
- ・EIS の手続きを必要とするプロジェクトは ECC を取得しなければ実施することができない。
- ・PD に係る書類の提出を求められているプロジェクトの提案者はその書類を DENR Regional Office に提出しなければならない。

- ・提出されたPDに係る書類は DENR Regional Office 及び、または Regional EIS Committee による審査を経て、DENR の出先機関の長 (Regional Executive Director, RED) により承認された ECC を取得しなければならない。

EIS 作成から、ECC 取得までの基本的な流れを、図 2.5.1-1 に示す通りである。

2.5.2 現地政府側の環境調査

このプロジェクトにはダムの建設が含まれているので、環境影響評価 (Environmental Impact Assessment, EIA) に関する手続きを履行し、ECC を取得しなければならない。プロジェクトの提案者は Pangashinan 州政府であるので、EIA の手続きを履行する主体は州政府である。州政府は 1996 年 10 月 8 日に、PD に係る書類を DENR Regional Office に提出し、ECC の取得を要請した。これに対する DENR Regional Office の回答が 10 月 28 日にあり、EIS に係る書類の提出を求められた。州政府は ECC の取得に必要な、EIS の書類作成等の手続きを進めている。

2.5.3 環境影響の調査、予測及び評価

(1) 土地の形状の変更等の規模及び内容

土地の形状の変更等を伴うプロジェクトの構成内容は以下のとおりである。

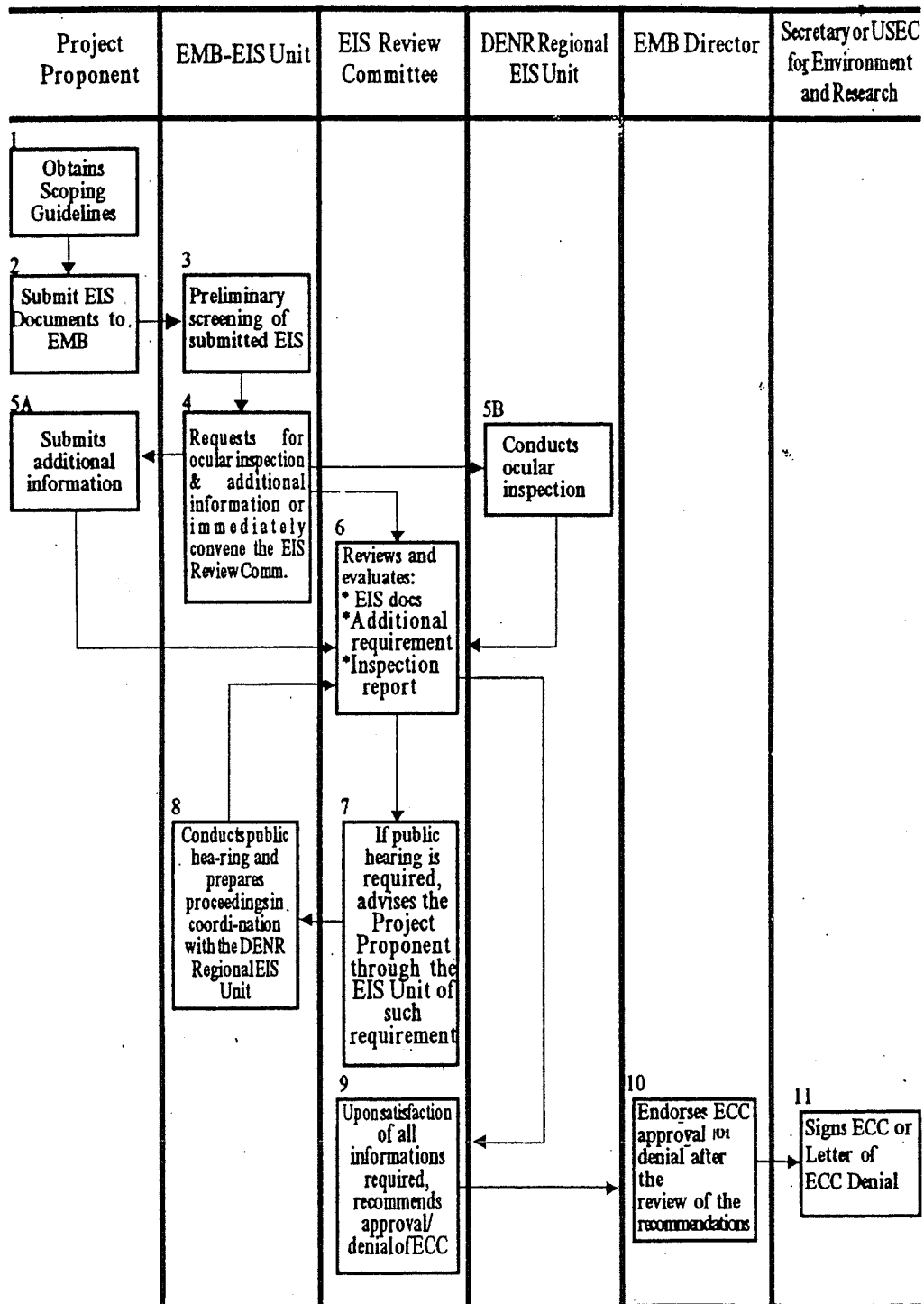
・ダム及び貯水池の建設

ダム形式 中央遮水型ロックフィルダム、堤高 34m、堤頂高 EL 57m、
堤頂長 270m、堤体積 30.4 万 m³、有効貯水容量 450 万 m³、
貯水池の面積 (EL52m 以下) 55ha (水田 7ha、広葉樹林 9ha、自然草地 39ha)

・土取り場予定地

コア材	(54 千 m ³)	: 4ha (草地)
ランダム材	(229 千 m ³)	: 26ha (河川敷)
フィルター材	(21 千 m ³)	: 15ha (河川敷)

REVIEW OF ENVIRONMENTAL IMPACT STATEMENT (EIS) DOCUMENTS



BASIC DESIGN FOR
INFANTA IMPOUNDING IRRIGATION AND
ENVIRONMENTAL IMPROVEMENT PROJECT

JAPAN INTERNATIONAL COOPERATION AGENCY

図 2.5.1-1

EIS作成から、ECC取得までの流れ

・入植地及び苗畑の開発（水道供給施設付き）

入植地の面積 12ha（自然草地）

苗畑の面積 約2.2ha（自然草地）

・灌漑水路の建設

新設 14.3km、拡幅改修 7.4km

・道路の建設

貯水池周辺道路（全幅員 4m、有効幅員 3m）新設 13.4 km、改修 3.4km

集落道路（全幅員 5m、有効幅員 4m）新設 1.9km、改修 5.3km

・ポストハーベスト施設の建設

天日乾燥施設 875m²（25 x 35m、簡易倉庫 40m² 付き） 8 カ所、各 Barangay に1カ所

(2) 環境影響評価項目並びに調査、予測及び評価の結果

調査結果は以下の通りである。

(A) 建設工事の実施が環境に及ぼす影響

・大気汚染（建設工事の実施に伴って発生する粉じん及び土石の搬出入に伴って発生する粉じんの影響）

ダムの建設工事における基礎掘削線までの河床砂礫層及び表土層の掘削除去作業、盛立て材料（コア材、フィルター材、ランダム材、リップラップ材）による堤体の盛立て作業、盛立て材料の搬入作業、掘削残土の搬出作業等、道路の新設及び改修における切り盛り作業、灌漑水路の新設及び改修における掘削作業等から粉じんが発生する。しかしダム建設予定地は直近の集落（バンバン）から 2km 以上離れている。又盛立て材料（コア材）の採取は入植予定地内及びその他の適切な場所を、掘削残土の処分は San Felipe 川下流左岸の適切な場所をそれぞれ候補地としていて、ともに直近の集落から 3km 以上離れている。さらに、道路及び灌漑水路の新設及び改修は、それらの実施に伴う土地の形質の変更行為の規模が比較的小規模である。したがって、粉じんの発生による大気汚染が住民の生活環境に及ぼす影響はほとんど生じない。

・水質汚濁（建設工事の実施に伴って発生する濁水による河川の外観の変化）

ダムの建設工事における河床砂礫層及び表土層の掘削除去作業、堤体の基礎処理（ブランケットクラウチング、カーテンクラウチング等）の作業の実施に伴って濁水が発生し、ダム建設予定地より下流の河川の外観を変化させる恐れがある。これに対しては、濁水防止対策としてダム建設予定地の下流部に仮堰堤を設置し、沈殿池を設置して、土砂を沈降させた後に放流する。

・騒音（建設工事の実施に伴って発生する建設作業騒音の影響）

ダムの建設工事、道路及び灌漑水路の新設及び改修に係る建設作業に使用する機械（コンクリートブレーカー、空気圧縮機等）から建設作業騒音が発生する。建設作業騒音の騒音レベルは使用する機械の能力及び発生源からの距離により異なるが、これらの機械を使用する場所はいずれも直近の集落（バンバン）から 2km 以上離れていて、住民の生活環境にほとんど影響を及ぼさない。

・振動（建設工事の実施に伴って発生する建設作業振動の影響）

ダムの建設工事、道路及び灌漑水路の新設及び改修に係る建設作業に使用する機械（振動ローラ、コンクリートブレーカー、空気圧縮機等）から建設作業振動が発生する。建設作業振動の振動レベルは使用する機械の能力及び発生源からの距離により異なるが、これらの機械を使用する場所はいずれも直近の集落（バンバン）から 2km 以上離れていて、住民の生活環境にほとんど影響を及ぼさない。

・廃棄物（建設工事の実施に伴って発生する残土と、その処分方法の影響）

ダムの建設工事における基礎掘削により河床砂礫層及び表土の風化層を除去する。この作業の実施により発生する河床砂礫の一部は堤体の盛立て材料として使用されるが、残余の部分と表土の風化層のほとんどは残土となる。これに対しては、サンフェリペ川下流左岸に土捨て場として予定している約 9ha の区域（土取り場採取計画図参照）に、発生した残土を運搬し、集積し、均平化する。一方灌漑水路の新設及び改修における掘削作業の実施により発生する残土の量は比較的少ないと考えられるが、同じく所定の土捨て場に運搬し、集積し、均平化する。また道路の新設及び改修における切り盛り作業の実施からはほとんど残土の発生が生じない。したがって、建設工事の実施に伴って発生する残土はすべてプ

プロジェクトサイト内の所定の場所に処分されるので、周辺の生活環境に影響を及ぼさない。

・ 安全（建設工事の実施に使用する工事用車両の通行に伴う交通安全）

建設工事に使用する工事用車両は、ダソール（Dasol）湾岸を北から南に走っている国道沿線の3地点、カト、ファティマ、ポブラシオンから計画地内に出入する。第一の経路は カトから バンバン・ノルテを経て バンバン の集落に至る道路、第二の経路は ファティマ から バンバンの集落に至る道路、第三の経路は ポブラシオン から バンバン の集落を経て パンガシナン 州立大学 インファンタ キャンプスに至る道路であり、第三の経路はダム建設地点及び貯水池の区域の周辺道路にアクセスしている。これらの道路はいずれも地区内幹線道路、集落間連絡道路及び生活道路として利用されている。工事用車両の通行に伴う交通安全対策として、主要な出入路に交通整理員を配置し、適切な場所に待避所を設置するなど施工管理に万全を期することにより、地域住民の交通安全は確保される。

(B) 事業の実施が自然環境に及ぼす影響

・ 気象（ダムの建設による湛水に伴う気温及び湿度の変化）

貯水池の面積（EL 55m 以下）は約 60ha、有効貯水量は 450 万 m^3 、常時満水位は EL 52m、最低水位は EL 37m である。大規模な貯水池の場合は、湛水に伴って貯水池の表面水温と貯水池周辺の気温の昇度に位相の差が生じて、風向が変化し、また貯水池の水面蒸発により、貯水池周辺の微気象（気温及び湿度）が変化すると考えられる。しかしながら、このプロジェクトにおけるダムの建設による湛水面積は比較的小さいので、周辺地域全体に及ぼす気象変化は小さいものと考えられるが、現時点での確に予測することはむずかしい。

・ 水象（ダムの建設による湛水に伴う河川流量の変化）

ダム建設予定地付近の サンフェリペ 川の流量は年平均が約 $1.2\text{m}^3/\text{s}$ 、乾期の平均が約 $0.29\text{m}^3/\text{s}$ 、雨期の平均が約 $2.12\text{m}^3/\text{s}$ と推定される。貯水池に流入する水量の年平均値は約 4360 万 m^3 で、その約 80% は 5月中旬から 10月中旬の雨期に流入する。ダム貯水池（有効貯水量は 450 万 m^3 ）は、雨期の終期に満水させ貯水した水を乾期に灌漑水として放流する。雨期の河川流量は、通常は現況より

の終期に満水させ貯水した水を乾期に灌漑水として放流する。雨期の河川流量は、通常は現況より多少減少することになり、満水後は現状と同じになる。河道の形状を変化させるような河川流量の変化は生じない。又ダム建設予定地より下流には水利権を有する水利用は存在しない。

・地象（ダムの建設による湛水に伴う傾斜地の崩壊及び土壌侵食の危険性）

ダム建設予定地及び湛水予定区域約 2,400ha の周辺には、サンフェリペ 川の左岸側 8箇所、右岸側 13箇所の小峡谷が分布している。小峡谷の傾斜度は様々であるが、傾斜度は緩く（ほとんどが10度以下）、植生に覆われて安定している。一方、同区域にはガリ（雨裂）が7カ所あるが、いずれも貯水池が接する位置と高さからは離れており、ダム建設がガリの安定に影響を及ぼすことはない。又そのうち、ダム建設予定地周辺（左岸側）に位置する2カ所のガリは、ダム建設予定地より下流側に位置しており、近年に発生したものではないが比較的大規模な侵食を受けている。これらのガリも、安定した形態となっているので、特に対策工は必要ないと判断されるが、ダム及道路の建設工事でこれらのガリを横断するような工事が必要な場合は、練石積み／蛇籠等を使用した谷止工による小規模対策工実施する必要があるものとする。

・動物（ダムの建設による湛水及び入植地の確保）に伴う動物の生息状況の変化

・インファンタ 市の広葉樹林、自然草地または河川で一般に観察される野生動物について聴き取りを行った結果、貴重種または重要種の動物は存在せず、野生動物の生息密度は低い（2.4.1.5の（2）を参照）と考えられる。野生動物の生息場所は主として広葉樹林及びその周辺の地域であるが、土地の形状の変更等を伴うプロジェクトの区域に存在している広葉樹林は、ダム及び貯水池の建設予定区域内に含まれている 20ha が主体で、その他貯水池周辺道路の新設に伴って若干の伐採が行われることになる。プロジェクトの実施に伴って消滅する広葉樹林は比較的少なく、動物の生息状況の変化は極めて少ない。

・植物（ダムの建設による湛水及び入植地の確保に伴う植物の生育状況の変化）

ダム及び貯水池の建設予定区域は面積約 120ha で、その中には水田約 7ha、広葉樹林約 20ha、自然草地約 93ha が含まれている。水田は標高 30m の谷部、標高 40~50m 及び標高 40~60m の緩斜面に点在し、広葉樹林は サンフェリペ 川に流入する小溪流により開析された谷の斜面部に主として分布している。

入植予定地は面積約 220ha で、水田約 4ha、樹園地（マンゴ）約 10ha、広葉樹林約 6ha を含み、その他は自然草地である。水田は入植予定地内の東側、標高 26~41m の位置に、おおむね幅 50m 以下の細長い帯状に分布している。樹園地（マンゴ）は入植予定地内のほぼ中央部の、標高 30~40m の位置に分布し、樹齢は 15 年程度と推定される。さらに、入植予定地内の南東端部に小面積の樹園地（マンゴ）が分布している。広葉樹林は、入植予定地内の北側の標高 36m の付近から南西方向に蛇行して、サンフェリペ川の支流の Putoi クリークに流入する水路沿いに、ほぼ 30~60m の幅で細長く分布している。

灌漑区域は面積約 1,180ha で、現況の土地利用はすべて水田である。なお、灌漑区域周辺の標高 10~30m の範囲には、広葉樹林と自然草地がそれぞれ相当の面積で分布している。

ダム及び貯水池の建設予定区域、入植予定地及び苗畑予定地、灌漑区域周辺の広葉樹林の主要樹種は、平地から標高 1,200m 以下の湿潤な谷部、丘陵及び山地に分布しているフタバガキ科 (*Dipterocarpaceae*) 及び乾期と雨期が明確に分かれている地域に分布しているクマツヅラ科 (*Verbenaceae*) の植物が主で、ダム及び貯水池の建設予定区域、入植予定地及び苗畑予定地の自然草地の主要な草種はイネ科 (*Gramineae*) の草本類である。（2.4.1.5 の (1) を参照）

上記の状況を総合的に評価判断すると、土地の形状の変更等を伴うプロジェクトの区域内には保存または移植を必要とするような貴重な植物の種、群落及び植生は存在せず、プロジェクトの実施に伴って消滅する広葉樹林も比較的少ないので、植物の生育状況の変化は極めて少ない。

(C) 事業の実施が社会経済的環境に及ぼす影響

- ・ 文化財（ダムの建設による洪水及び入植地の確保に伴う文化財、遺跡、重要構造物の消滅の有無）

事業の実施区域内に文化財、遺跡、重要構造物等は存在していないので、それらの消滅の問題は生じない。

・景観（ダム建設による湛水）が周辺の主要展望地点からの眺望に及ぼす影響

ダム建設計画地点、湛水による水没予定区域、入植予定地及び灌漑区域内には、不特定多数の人々の展望の用に供する園地、休憩所、展望施設その他の利用者の眺望の用に供される公共的な場所は存在しない。

ダム建設計画地点より下流域で、この計画に基づく構造物全体を眺望し得る範囲は、標高及び地形条件から南南西の方向に限られ、ダム頂を基線として、左岸側ではほぼ 90 度、右岸側ではほぼ 100 度の比較的狭い区域である。また、構造物の大部分（80％）を眺望し得る範囲は同様に、ダム頂の左岸側ではほぼ 100 度、右岸側ではほぼ 105 度の範囲と推定される。

ダム建設計画地点から南南西の方向にある地域について、地形の縦断解析により推定される構造物の可視領域はおおむね 2~2.4Km の範囲である。なお、構造物を眺望し得る範囲の延長線上に標高の高い台地または丘がある場合には、その背後地からは構造物を眺望し得ない。

バランガイ バンバン の集落及び バンガシナン 州立大学 インファンタキャンパス (PSU)、その他の市内の主要な集落からは、ダム建設計画地点を直接眺望することはできない。

・レクリエーション資源（ダム建設による湛水及び入植地の確保がレクリエーション資源の利活用に及ぼす影響）

各 バランガイ にバスケットボール・コートとバレーボール・コート、ポブラシオン の公園内にテニス・コートがある。バスケットボール・コート及びテニス・コートはコンクリート・コート、バレーボール・コートはクレイ・コートである。これらの運動施設は バランガイ 対抗競技会などの他に、各種の祭典、催し物などに広く利用されている。また、バスケットボール・コートはイネ収穫後の稲の乾燥施設として活用されている。

事業の実施区域内にはレクリエーション資源（主として運動施設）は存在していないので、レクリエーション資源の利活用には及ぼす影響は生じない。地区内道路の新設及び拡幅改修により、既存のレクリエーション資源に対するアクセスが容易になる。新たに設置されるポストハーベスト施設はレクリエーション資源として活用できる。

・地域分断（ダム建設による湛水及び入植地の確保が学校、公園その他の公共施設の利用に及ぼす影響及び地域のコミュニティに及ぼす影響）

インファンタ 市には 13 の バランガイがあり、ダム建設計画地点、湛水による水没予定区域、入植予定地は バランガイ バンバン に位置し、灌漑区域は バンバン、カト、ファティマ、マヤ、ナヨム、ボトル、ナガリサン、ドリマン の各 バランガイ に分布している。

市の総面積は 約 250km²、人口は 約 18,000 人、世帯数は 3,132 であり、使用言語（方言）は イロカノ（Ilocano）（76%）、タガログ（Tagalog）（15%）、その他（9%）、宗教はほとんどがカトリック教である。市内の主要な公共施設は以下のとおりである。

教育施設： 小学校は各 バランガイ に 1 校、計 13 校、高校は公立 3 校（バンバン、カト、ボブラシオン）、私立 1 校（Saint John's Institute）、計 4 校がある。また、バンバン には バンガシナン 州立大学 インファンタ キャンパス(PSU)があり、農業関係の高等教育を行っている。

公共ホール： 1 施設が ボブラシオン の市庁舎にある。又各バランガイにもホールがある。

公園： 1 施設が ボブラシオン にある。

保健所： 地区保健所（Barangay Health Station）が 3 施設（バンバン、ボトル、ピタ）と、中央保健所（Rural Health Unit）が 1 施設（Poblacion の市庁舎内）、計 4 施設が設置されている。

病院： 存在していない。隣町のサンタクルスにある。

ダム及び貯水池の建設に伴って水没する地域及び周辺に居住する農家は 20 戸である。水没する地域には教育施設、公共ホール、公園、保健所等の公共施設は存在していないので、公共施設の利用に対する影響は生じない。水没地域の農家は入植地に移転する計画である。

入植地に移住した農家の子女は バンバン または ドリマン の小学校または中・高等学校に通学することになる。地区内道路の新設及び拡幅改修により、既存の公共施設に対するアクセスが容易になる。

上記の状況を総合的に判断すると、プロジェクトの実施により地域のコミュニティ（一体性）が損なわれる恐れはないと考える。

2.5.4 環境影響の軽減対策と配慮事項

環境影響の調査、予測及び評価の結果から、プロジェクトの実施が地域の自然的環境及び社会経済的環境に及ぼす負のインパクトはほとんど無いが、または著しく少ないと考えられるが、より万全を期するために必要と考えられるダム、水路、道路等の建設工事の実施中及び施設の共用時における環境影響の軽減対策と配慮事項は、以下のとおりである。

- ・ 建設工事に使用する資機材の搬入及び搬出の用に供する道路は地区内幹線道路、集落間連絡道路または生活道路であり、その一部は改修し、拡幅することになる。そのため、地域住民の交通安全を確保し、地域住民による利用に支障をきたすことのないように配慮する。
- ・ 建設工事に使用する資機材を搬入し、または搬出する車両が地区内の集落を通過する際及び集落内またはその付近で道路の改修を実施する際には、施工の時期が乾期になるので、粉じんの発生が生活環境に影響を及ぼさないように、散水等適切な対策を講じる。
- ・ ダムの建設工事中に発生する濁水の防止対策としては、沈殿池を設置して土砂を沈降させ、上澄液を放流することとなっている。工事の実施に際しては適正規模の沈殿池を設置するとともに、それが十分に機能するように排水の放流管理に留意する。
- ・ ダムの建設工事における基礎掘削により発生する残土は San Felipe 川下流左岸部の適切な場所に予定している土捨て場に運搬し、処分することとなっている。土捨て場は工事終了後に、周辺の地形に即応した整形を行い、土地の有効利用に資する。
- ・ 貯水池の湛水後における水面蒸発による貯水池周辺の微気象（気温及び湿度）の変化は現時点で的確に予測することは難しいが、湛水面積が比較的小規模であるので、影響はほとんど生じないと考えられる。しかしながら、ダム周辺の気象条件を将来にわたって把握するために、ダムサイトの管

理事務所等で温湿度、風その他の気象観測を併せて実施することが望ましい。

- ・ダム建設予定地及び湛水予定区域の周辺に分布するガリによる傾斜地の崩壊と土壌浸食の防止対策としては、必要な箇所に対して練石積みの土止堤の工事等を行うこととしている。ダムの建設工事に先立って対策の必要な箇所を改めて精査し、事故の未然防止に万全を期する。
- ・ダム堤体の盛立てに使用する材料の一部は入植予定地その他の適切な場所から採取する計画である。これらの土取り場については工事の終了後に整地し、均平化することになっているが、崩落、地滑り等の事故が生じないように、周辺の地形に即応した、安全な土地の再造成を行い植生の回復を図る。
- ・土地の形質の変更行為の実施により改変される主要な区域はダムの建設予定地とその上流の貯水地の予定区域約 120ha、入植予定地約 220ha で、その他に道路の新設区域等が若干含まれている。これらの区域と周辺の地域に貴重種または重要種の動物及び植物は存在せず、また大部分が植生の比較的単純な草地であるため、動物の生息状況及び植物の生育状況の変化は極めて少ない。ただし、広葉樹林はこの地域の重要な天然資源であるので、ダムの建設予定地と貯水地の予定区域以外の区域においては、できるだけ保全する方向で工事の実施区域を選定する。
- ・入植予定地内には 12ha の居住区が造成され新たな村落が形成される。地元住民と差のない生活環境整備が必要となる。
- ・ダム建設予定地の周辺には、現在は、主要な展望地点（不特定多数の人々の展望の用に供される公共的主要な場所）は存在せず、ダムの建設が周辺地域の景観を損なう恐れは少ないが、ダム建設予定地周辺の小山からダム建設予定地及び西～南の方向を展望する景観は優れている。そのため、周辺の自然景観と調和した構造物及び付帯施設の設計について配慮する。

4.1.7 相手国側負担事項

本プロジェクト実施に伴い必要な相手国側の負担事項は下記のとおりである。

- 1) 本計画実施のために必要な土地および使用許可の取得
- 2) 現況道路からダム工事地点までのアクセス道路建設に必要な用地取得または使用権の確保
- 3) 車輛・機材および建設用機械の国道および集落道の通行許可
- 4) 輸入税および手続き費用の免除、および本計画実施のために輸入される資機材および部品の税関手続きに必要な措置を実施
- 5) 下記の銀行取り決めに基づく日本の外国為替銀行に対する手数料の支払い
 - ・支払い授權書 (A/P) の通知手数料
 - ・支払い手数料
- 6) 認証済契約の下に製品および役務の提供が必要とされる日本人に対し、工事実施期間中の「フィ」国への入国および滞在の承認
- 7) 認証済契約の下に製品および役務の提供に関連して「フィ」国内で課される関税、内国税およびその他の税の日本人に対する免除
- 8) 無償援助による施設および資機材の適切かつ効果的運営管理
- 9) 無償援助に含まれていない施設の建設、機材の運搬にかかる全ての経費の負担